

M31a 京都大学飛騨天文台太陽観測データアーカイブの整備

石井 貴子, 一本 潔, 上野 悟, 阿南 徹 (京大・理・天文台)

京都大学飛騨天文台では、現在、ドームレス太陽望遠鏡 (Domeless Solar Telescope: DST) と太陽磁場活動望遠鏡 (Solar Magnetic Activity Research Telescope: SMART) の二つの望遠鏡を用いて、太陽観測を行っている。

SMART/T1 は、H-alpha 線 ($H\alpha$ 中心、 $\pm 0.5 \text{ \AA}$ 、 $\pm 0.8 \text{ \AA}$ 、 $\pm 1.2 \text{ \AA}$ 、 $+ 3.5 \text{ \AA}$) で太陽全面を高空間分解能 (0.6 arcsec/pixel) で撮像する。2005 年夏以降、観測は大学院生、PD、天文台職員らによって定常的に行われており、リアルタイムデータと一次処理済データ、活動現象のムービーなどを Web 上 (<http://www.hida.kyoto-u.ac.jp/SMART/>) で公開している。一次処理済データは、カレンダー形式で毎日の太陽像を一覧で表示し、各日の太陽像をクリックすると該当日のデータとムービー及び観測ログのページへと移動する構成になっている。

SMART/FISCH (Flare Imaging System in Continuum and H-alpha) についても 2011 年 8 月のファーストライト以降のデータについてのクイックルックと 2013 年 1 月以降のイベントムービーを SMART T1 と同様の URL からのリンク先にて公開している。

ドームレス太陽望遠鏡 (DST) については、これまで撮像観測のムービーアーカイブのみを公開していたが、今年度から分光・偏光観測データのクイックルックの公開に向けてデータアーカイブの整備を始めた。

本講演では、データアーカイブの概要および、最近のフレア観測例をアーカイブから紹介する。